



アフリカ北東部のスーダン共和国における EM 活用を紹介します。

同国では、2008 年に本格的な EM の生産がはじまりました。現在政府機関や大学と共同研究を進めながら、環境問題の解決、持続可能な農業技術確立に EM 技術の応用が期待されています。



写真は塩類集積土壌における栽培試験。EM 堆肥と活性液を使用することで顕著な効果が見られた。特にタマネギ栽培において EM 区は化学肥料区の2倍の収量を得た(写真左)。

5月21日付、農業共済新聞四国版にて、ジュースの搾りかすを EM で有効利用する取り組みが紹介されました。

【愛媛支局】EM(有用微生物群)自然農法を取り入れ、おいしい米作り日々奮闘している西予市宇和町の中西聡さん(40)。「味が自慢の良質な宇和米を作りたい」と、中西さんら宇和の若手農家が「男米プロジェクト」を立ち上げ、愛媛ならではの堆肥「みかんぼかし」作りの取り組みを開始した。

おいしい米作りを目指し、新しい取り組みを模索している中、普段は捨ててしまいうみかんジュースの搾りかすに着目。それを加工し、EMで堆肥を作ってみようとしたのがきっかけだという。

みかんぼかしは、同市明

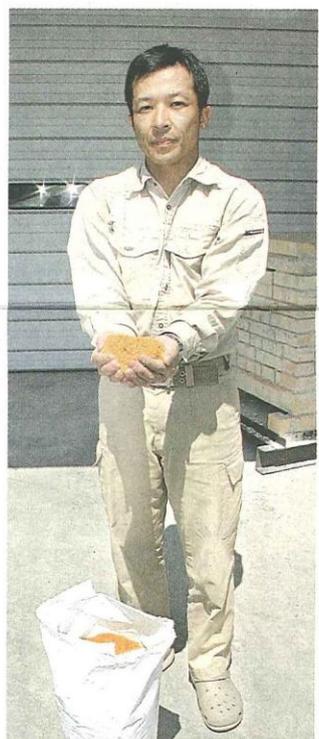
◇◇◇イベントのご案内 ◇◇◇

- 善循環の輪 えひめの集い in 松山
【日時】11月1日(土)、9:00 開会
【場所】松山認定こども園星岡
- 善循環の輪 兵庫の集い in 稲美
【日時】11月8日(土)、12:30 開会
【場所】稲美町立コミュニティーセンターホール
- 第3回環境フォーラムうつくしまEMパラダイス
【日時】11月22日(土)、13:00 開会
【場所】福島県教育会館大ホール

詳細は U-ネット事務局へ問合せください。

ミカンの搾りかすを肥料に米作り おいしい「みかん米」開発へ

西予市宇和町の若手農家が「男米プロジェクト」



出来上がったみかんぼかしを手に中西さん

浜町でジュースの製造時に出るミカンの皮と米ぬか、もみ殻にEMを入れて混ぜ合わせ、1カ月ほど発酵させると完成する。今年から本格的に、圃場にみかんぼかしを投入する。今年から本格的に、圃場にみかんぼかしを投入する。今年から本格的に、圃場にみかんぼかしを投入する。

「コシヒカリ」「にこまる」を中心に約50坪で栽培する。中西さんは「今後は規模を拡大し、地元資材を再利用して循環型の農業になれば面白いと思います。みかん米」

(栗林康二)